資料２

第１回　推進会議でいただいた主なご意見

○小中一貫教育の必要性とめざすもの　　⇒検討項目２（推進方策２～５ページ）

・「滑らかな接続」「段差のない教育」というより、鍛える機会を早どりして段差を乗り越える力をつけさせることが大事ではないか。
・小学校籍、中学校籍の教員が、お互いになぜそう考えているのか理解できるようになると、子供の理解の仕方など、いろいろなことが見えてくる。
・分離型でどのように効果的に小中一貫教育を進めるのか、学校施設や教員配置は「６・３」のままで、なぜ小中一貫教育が必要なのかを理論構築すべきである。
・今の義務教育の「６」と「３」の何が欠点となっているのか、小中一貫教育はどういうアプローチをとることでそれを克服していけるのかを考える必要がある。
・施設が離れていても小中一貫教育をやることによって、今の子供をどう成長させるのかということだと思う。
・戦後すぐに始まった「６・３・３」制に制度疲労がきているのかもしれない。それを補って修復できるものがもしかしたら小中一貫教育なのではないか。
・小中一貫教育を何のためにやるのか、何か課題があってその課題を解消するためにやっていくのだと思うが、見えてこない。今は、学校選択制で自分の中学校に来てもらうために頑張ってやっている。本来は、小学校と中学校の教員が子供の実態から洗い出して、こういうところができないから連携してやっていこう、とよく突き詰めて考えていかなければいけないと思うが、時間がない。
・小中一貫教育校の校長をやってみて、子供の理解の仕方などについて、小学校も中学校もお互いに理解していない部分があると感じている。小・中学校の教員がお互い気がつかずに子供は育っていって、自立から遠のいていったら子供の不幸である。
・推進していくときに必要なのが、必然性と使命感だと思う。連携クリエーターという役割のある教員は一生懸命やろうとしているが、使命感には差がある。仕事が増えるが、どういう推進に役立っているのかが教員に十分理解されていないと負担感となる。「私たちがやっているのは意味があるのだ」と教員が思うことで、小中一貫教育は進んでいく。

○小中一貫教育の成果とめざすもの　　⇒検討項目２（推進方策２～５ページ）

・連携クリエーターになって、中学校に行ったときに教科担任制、制服、校則、生徒会、部活動など、小中のギャップが思った以上に大きいとわかった。小中一貫教育の取組で子供たちがギャップをあらかじめ理解できる。
・中学校の文化発表会で小学生が歌う取組を始めたところ、中学生は小学生の歌声を聞いて、懐かしいと思うのと同時に「自分たちは成長したのだ」という誇りを感じたり、「自分たちももっと頑張りたい」という意欲の高まりがみられた。
・連携クリエーターとして小学校とのやりとりをする中で、小学校の年間行事・スケジュールや、小学校の先生や児童の生活の様子などもわかってきて、それがふだんの授業の中で生かせてきているのかなと感じている。

・小中一貫教育研究グループとして、小学校とのつながりを意識して中学校の教科指導資料を作成しようと小学校の教科書などをよく読んだ結果、小学校でここまで学習しているということが理解できて、今の授業にすごく役立っている。
・連携をとっていく中で、小学校と中学校が別の組織ではなく同じ子供たちを教育しているというふうに認識が変わってきた。子供の話題で「誰々君が中学校で活躍しているよ」という話を、別の学校の先生の話ではなく同じ子供を見ている同じ組織というふうに教員の意識が変わってきたところが大きな成果だなと思う。それを今度、授業にどう生かしていくかということが次の課題である。
・連携先の中学校に出かけたときに、卒業生が「先生」と声をかけてくれるのが、小学校の教員はすごくうれしい。中学生も、卒業しても小学校の先生とつながっていると実感してくれているのを感じる。
・単学級の子供たちが、小小連携で、同年代の子供たちがどんなふうに生活しているのかということを知り合うだけでも、非常に有意義な取組ができている。
・中学入学前の春休みに、中学校で作成した宿題を６年生の先生に教室で配ってもらい、春休みの課題について話をしてもらっている。保護者からも評判がよく効果もあった。今後は、小学校６年生の先生に問題づくりに一緒に加わってもらえるといいと思っている。

○９年間の区切り　　⇒検討項目３（推進方策６ページ）
・「４・３・２」の区切りで子供の成長を考えていこうという基本方針が出ている。４年生が１つの成長のいい区切りと感じる。
・「４・３・２」という区切りは、結構広がってはいるが、「５・４」で区切って小中一貫教育を実施しているところもある。
・一体型であれば「４・３・２」の区切りで教育活動ができるが、分離型ではできないのではないか。

○施設一体型と施設分離型　　⇒検討項目５（推進方策６～10 ページ）
・分離型でも施設一体型と同じような教育課程を導入してやっていくということでいいのだろうか。
・保護者に小中一貫の内容が浸透していないので、いい悪いは言えないが、分離型は分離型のやり方等々も考えていかなくてはいけないのかなと思う。
・施設一体型では校長は一人だが、分離型では、複数の校長がいる。複数の校長による意思決定がうまくいくかどうかが大きい。
・９年間を見越したカリキュラムをつくってやるしかないのではないのではないか。施設が分離していてもできること、小学校１年から中学校までこれだけはやりましょうというものを決めて、○○ミニマムとしてはどうか。
・分離型では、一体型ではないからできる可能性を感じた。３校で全校読書の取組をしようとか、いじめ一掃のための取組を３校でどんな形でやるかとか、道徳の授業や挨拶について、離れてはいるのだけれど、３校でやっていくには同じ共通の取組をしようという形で進めている。

○中学校への進学先と小・中学校の組合せ　⇒検討項目６（推進方策 11 ページ）

・３校の小学校から進学してくるので、中学校は３小学校と連携しなければならないが、小学校はまた複数の中学校へ子供たちが進学するので、その辺をどのように統一してやっていくのかなと思う。

・３中学校に分かれる小学校や、受け入れる中学校も複数の小学校からくるなど、小学校と中学校の通学区域の関係もいくつかのパターンが考えられる。

・９年間通した子供の成長を検証していきたいが、連携先の中学校へ進学する子供が増えていないため、なかなか検証しづらい。

・選択制があっても地元の中学校を選ぶというカラーを出していかない限り、小中一貫の成果を発揮することができない。

・９年間を見通した教育課程を検討して小中一貫教育を進めても、学校選択制で違う小学校の子供たちがたくさん来ている中学校もあり、疑問がある。

○乗り入れ授業　　⇒検討項目８（推進方策 14 ページ）

・乗り入れ授業は、中学校の雰囲気を年間通して肌で感じることができ、中学校での数学の授業の進め方を体感できる点で、大きなメリットがある。

・小規模小学校（単学級）の子供にとっては、乗り入れ授業で他校の先生から教えてもらうという刺激がいい方向に作用している。

・来年度から乗り入れ授業を中心に連携教室での活動を計画しているが、不安を感じている教員が多い。どういう授業をやっていこうかというのをその教科に任せるのではなくて、組織として今計画をつくっていこうという取組を始めている。

・乗り入れ授業をやってみて、小学校が中学校の専科の授業をほめたり質問してくれたりして、中学校の教員が授業のやり方や実験の準備方法などを答えることができ、やって損はなかったという気持ちになり、次もやりたいという意欲になった。

○実践校から施設分離型小中一貫教育校への移行　⇒検討項目 10（推進方策 15 ページ）

・分離型で小中一貫教育校になるとしたら、どういうふうに校舎を使うのだろうかと保護者のなかで話題になっている。

○Ｃ４ｔｈ（校務支援システム）の活用　　⇒検討項目 11（推進方策 16 ページ）

・Ｃ４ｔｈで連絡を密にとりやすくなったので、職員室が近くなったような感覚を持っている。Ｃ４ｔｈをうまく活用して会議時間を生み出すよう取り組んでいきたい。

○小中一貫教育の課題　　⇒検討項目 11・14（推進方策 16・18 ページ）

・小中一貫教育校では「４・３・２」の区切りで教育を行うことで、４年生が力をつけてきたが、７年生が「中学生になった」というインパクトを持ちにくくなった面がある。７年生が「小学７年生」ではなく、小中一貫教育の第２期のリーダーである「７年生」になり得るために、カリキュラムを作り直して、単元開発をしながら構想を重ねている。

・小学校から中学校に上がるときに、友人関係が変わったり校舎が変わったりすることで新しい気持ちになって「頑張るんだ」というリセット感がなくなってしまい、マイナスに働いてくることもあると思う。
・他区の小中一貫教育校では、小学生から授業数が増えるなどして、小学校が中学校化しているのではないかという話も聞く。小中一貫教育校をつくる場合には、どういう原理で一本化すべきなのか。
・小中一貫教育で教員の負担が増えるという意見もあるが、仕事をやっていく上で負担と思うのか責務と思うかの違いで、必要だからやっている。
・時間の確保や人的な措置についても検討していかなければいけない。

○学校規模と小中一貫教育　　⇒検討項目 16（推進方策 19 ページ）
・小規模校の場合、小中一貫教育で９年間、人間関係が固定してしまうのは避けたいという保護者の思いがある。
・本校（中学校）は 12 学級あり、学区域の小学校２校も規模が大きい。出前授業や部活動見学をやるときも、２校の子供を一度に受け入れるのは難しい。２校とやりたい気持ちはあるが、物理的に無理があり悩みどころである。